

# 砂と暮らし 砂に学ぶ ITP だより

シリア第二の都市アレppoにおいても、庶民の足はバスをはじめとする自動車です。アレppoに来て、初めに驚いたことは、日本車の多さです。トヨタ・日産・マツダなど、日本でもおなじみの会社の車が多く走っています。ただ、日本と大きく異なるのはその車が古いことです。走行距離が30万キロを超えている車も現役で活動中でした。道路の真ん中で立ち往生し、修理を行

## シリアの自動車事情

っているバスにも度々遭遇します。信号に対する考えも全く異なります。「赤は注意して進め、黄色は進め、青は急いで進め」といった具合です。



車とすれ違う羊とヤギの群れ

交通量の多い幹線道路においても、赤信号で

進む車を見ることはありません。一般的に信号が青になってから進むのは遅く、クラクションの風が待ち受けています。村へ足を延ばせば、道路一面に広がる移動中の羊たちに出合うことができません。羊飼いたちは、クラクションを聞いてから道をあける、といったのどかな風景を見ることができません。

(水曜日に掲載)

ITP (若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム) 国際的に活躍できる若手研究者を育成することを目指し、日本学術振興会が支援する事業。

(鳥取大学大学院農学研究科学生・佐藤敏雄)